

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4270201819		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホーム みのりの里 コスモス		
所在地	〒859-3236 長崎県佐世保市南風崎町119-4 (電話) 0956-59-2455		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年12月11日	評価確定日	平成21年1月20日

【情報提供票より】(H20年11月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	一部3階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	実費・水道光熱費100円/日	
敷金	(有)100,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月17日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	0名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.6歳	最低	70歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	梶田医院・佐世保中央病院・千住病院
---------	-------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いの系列病院に併設されており、建物の2階部分がホームとなっている。1階部分は職員の休憩や会議の部屋を作られており多目的利用をされている。平成20年4月に管理者が法人内で相互異動をされている。現在は異動で来られた職員が主任として活躍されている。遅出職員と夜勤職員の交代時間が重なっておらず、事故発生が多発する時間帯に2人体制を取られるように現在検討中とされており今後の進展を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シート「市町村担当者と話し合う機会を作る。」は、福祉関連との情報やサービスにつなげる取り組みをされている。「法人内での研修及び外部研修を通じてサービス向上に努める。」今回は法人内での研修参加回数や外部研修が増えている。運営推進会議の意見をサービス向上につなげ、運営推進会議で地域住民の参加が積極的になり、地域との交流は深められ、サービス向上に繋げている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全員で取り組まれ、回覧で各職員が記入後現在の主任が取りまとめられている。職員と管理者は評価の意義を理解されており、日々の介護の振り返りなどに活かされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	3ヶ月に1回法人内のグループホーム全体で運営推進会議を開催されている。各ホームの入居者家族や近隣住民、町内会長、地域包括支援センター職員が参加されている。外部評価の公表や今後の取り組み・町内行事参加案内などを通して意見交換されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議での、運営に関する意見や要望は家族からは殆どなく、意見箱にも入らない。家族面会時に話しを聞くが意見が少なくどうすれば良いか模索されている。家族会の立ち上げには1年ではできないかも知れないが、家族会開催を期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	近所に当ホームの入居者の家族があり、入居者が亡くなった後も時々訪問されて入居者の話し相手になっている。又、自治会にも加入されており、地域行事への誘いも多い。婦人会からは健康体操の指導に来られるなど地域との交流を積極的に行われている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人内の理念はあるが、設立時から変わらないホーム独自の介護目標「常に声をかけ、対話を心がけます。・明るい笑顔で仲間と支え合って快適な生活。・残存能力を伸ばすケアを致します。・生きがいのある生活で、喜びと自信を」を理念とされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人内の会議やホームの職員会議の際に理念を確認し日々の介護に活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所に当ホームの入居者家族があり、入居者が亡くなった後も、時々訪問されて入居者の話し相手になっている。自治会に加入されており、地域行事への誘いも多い。婦人会から健康体操の指導に来られるなど、地域との交流を積極的に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員全員で取り組まれ、回覧で各職員が記入後、現在の主任が取りまとめられている。職員と管理者は評価の意義を理解されており、日々の介護の振り返りなどに活かされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回法人内のグループホーム全体で運営推進会議を開催されている。各ホームの入居者家族や近隣住民、町内会長、地域包括支援センター職員等が参加され意見交換をされている。		

グループホーム みのりの里コスモス

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センター職員が参加されるようになった。各種手続きや書類関連で市町村との行き来をされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム内の壁に外出時や行事参加時の入居者の写真掲示をされている。ご家族には本人の写真と同封して、2～3ヶ月に1回ホーム便りとして送付されている。今後は家族と本人の許可を得て普段の様子を撮った写真を便りに掲載して送付される意向を示された。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で運営に関する意見や要望などは少なく、家族会の開催に向けた取り組みを検討されている。	○	家族が集まる機会(夏越祭りや各ユニットの運動会など)を利用して、家族の顔合わせ程度から始められることを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年4月、数年勤められた管理者が、法人内異動をされた。異動後もホームに訪れ顔を見せる機会を持つことで入居者の動揺が減少している。入居者へのダメージを最小限に抑えるため法人内異動は考慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の充実や外部研修への参加を職員に促されており、研修参加の回数も増えている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入されており、毎回管理者や職員が参加されている。		

グループホーム みのりの里コスモス

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>隣接している病院から入居に至る以外に、ホームの見学に来られることがある。入居申し込み後から職員が家庭訪問などで顔なじみの環境を整えて入居されるように支援されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は介護する立場以外に、入居者を人生の先輩として捉え多くを学ぶ姿勢が窺える。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>その人らしい暮らし方を大切に、言葉にできない思いや意向の把握は、表情や言葉で確認されている。全ての入居者を個別に捉える努力をされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者は兼務をされている。家族の意向や現状・職員の気付き、意見を取り入れて利用者本意の介護計画作成の努力をされている。</p>	○	<p>日々の介護記録が介護計画に沿ったものではなく、見直し時に介護計画作成担当者が目標の達成状況をつかみにくい。介護現場の職員の気付きや意見を取り入れるためにも、日々の介護記録を見直し、入居者の生活の充実につなげられることを期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の介護記録は本人の生活状況の記録に留まっている。見直し前に変化があれば、現状に即した計画の見直しをされている。</p>		

グループホーム みのりの里コスモス

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列の医療法人と医療連携を取られている。他の病院受診は家族がされており、特別な外出も家族で対応されている。家族がいない入居者の自宅への外出時は職員が付き添われるなど柔軟な対応がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に医療連携をとられている病院がかかりつけではない場合は、家族と本人の同意を得てかかりつけ医を変更されている。健康状態の報告は随時家族にされており、職員との情報の共有を持たれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の可能性がある場合は、主治医と家族、職員が常に連携を持ちながら段階的な話し合いを持たれている。医療が必要になるまでホームで過ごされる入居者が数人おられた。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録などは、入居者が昼食後部屋で休まれる時間を利用して記録する等、全職員が心がけられている。又、入居者の尊厳を傷つけないような言葉使いに常に配慮をされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重し、食事や入浴の時間に幅を持って対応されている。		

グループホーム みのりの里コスモス

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	車椅子移動が必要な入居者が半数近くおり、食事介助が必要な方もおられ、円背で備え付けのテーブルでは自力摂取が困難な入居者もいる。自力摂取への方向付けで車椅子用のテーブルをすぐ使いましょうと提案され、前向きな姿勢がみられた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴できる体制を取られており、体調不良や拒否・その時々入居者の希望を大切にされ、全介助が必要な方も浴槽に入れて気分転換や寛いだ入浴支援をされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歩行や手作業などできる入居者や、車椅子でも手伝いができる方には、その日の体調を確認しながら、食事の後片付けなどお願いされている。生活の延長線として何ができるか考慮し、裁縫が得意な入居者は職員の助言などで作品を作られている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子や横になられている入居者が多いが、外気に触れるように窓を開けたり、気分がよい時はホーム周囲を車椅子の方も歩ける方たちと共に外出されている。近隣住民と挨拶を交わして顔馴染みの関係を持たれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間を除いて、2階玄関には施錠やセンサーなど設置されていないが、職員の見守りで問題なく対応されている。出て行かれるときがたまにあるが、職員が付き添って本人が納得の上でホームに帰り落ち着かれるまで支援をされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いを含め年2回、入居者と共に避難誘導・訓練・消火器の扱い方など行われている。近隣住民にも訓練があることの通知や参加を呼びかけられている。自然災害や新型インフルエンザなどにも対応できるような備蓄は隣接の病院に確保されている。		

グループホーム みのりの里コスモス

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は入居者の希望も取り入れながら職員が料理されている。栄養バランスを考え、嚥下困難な方にはとろみや刻むなど手を加えてある。水分摂取量は大まかに決められているが、個別に必要な方には細かい摂取量チェックと、好みの飲み物を準備するなど支援をされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物2階部分がホームとなっている。居間の大きなガラス窓からは明るい日差しが入り込み、広い田んぼや線路、山など見えている。季節を感じさせる入居者の手作りカレンダーや作品が置いてある。窓際にソファや畳のスペースがあり、車椅子がスムーズに通る広いフロアとなっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の個性が分かるような馴染みの品など置いてあり、特に独居生活だった方は小さな仏壇を置くことで安心した入居生活を送られている。居室内にトイレや洗面台を設備されており、居心地良い居室の配慮がされている。		